

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組について

玉城町教育委員会

玉城町教育委員会では、各校の代表者等で組織する玉城町学力向上推進協議会を設置し、取組の一つとして、町内各校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析しています。そして、各校及び町全体の成果と課題を検証し、教師の授業改善及び児童生徒の学習状況の改善につなげる取組を進めています。まず、各校において、町内統一分析シート等を用いて全国学力・学習状況調査における児童生徒の学力の定着状況を把握し、「強み」と「弱み」を明らかにします。課題が見られた学習内容については、学年の系統性を重視して学校全体で授業改善に取り組むことで、確実な定着を目指しています。

今年度も、本町の児童・生徒の学力・学習状況について、良好な結果がみられたものを「強み」、課題がみられたものを「弱み」として表し、今後の取組とあわせて以下の通りまとめました。

※「強み」と「弱み」について

教科に関する調査

- 「強み」… 平均正答率が特に高かったもの
全国平均・県平均を大きく上回ったもの
- 「弱み」… 平均正答率が特に低かったもの
全国平均・県平均を大きく下回ったもの

児童生徒質問紙調査

- 「強み」… 肯定的回答をした児童生徒の割合が特に高かったもの
全国の割合を上回っているもの
- 「弱み」… 肯定的回答をした児童生徒の割合が特に低かったもの
全国の割合を下回っているもの

1 調査の概要

- (1) 調査日 令和6年4月18日(木)
- (2) 調査対象 玉城町立小学校第6学年(123名)、玉城中学校第3学年(144名)
- (3) 調査内容 教科に関する調査(国語、算数・数学)
児童生徒質問紙調査

2 教科に関する調査の結果

(1) 小学校

①国語科

	強み	弱み
田丸小	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うこと ・文の中における主語と述語の関係を捉えること ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること
有田小	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること ・文の中における主語と述語の関係を捉えること ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うこと ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること
外城田小	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うこと ・人物像を具体的に想像すること
下外城田小	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること ・文の中における主語と述語の関係を捉えること ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること

学力の定着に向けた取組（一部）

田丸小

- 学年で系統立てて、条件付き作文指導を行う。
- 漢字指導において、熟語の意味や同音異義語を確認する。

有田小

- 朝の学習で、漢字確認テストに取り組む。
- 叙述をもとに、登場人物の心情を適切に捉えることを指導する。

外城田小

- 主語・述語の関係を明らかにして、長い文章を短くまとめる活動を取り入れる。
- 読書量を増やし、活字（長文）に慣れさせる取組（ビブリオバトル、ブックトーク）を行う。

下外城田小

- 主語・述語を意識した作文指導を行う。
- 情報を収集・整理・発表する経験を積み、論理的な構成力を養う。

②算数科

	強み	弱み
田丸小	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること 除数が小数である場合の除法の計算をすること 	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること
有田小	<ul style="list-style-type: none"> 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解すること 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること 	<ul style="list-style-type: none"> 除数が小数である場合の除法の計算をすること 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること 速さの意味について理解すること
外城田小	<ul style="list-style-type: none"> 直方体の見取り図について理解し、かくこと 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること 	<ul style="list-style-type: none"> 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること 速さの意味について理解すること
下外城田小	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を、□を用いた式に表すこと 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること 簡単な二次元の式を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理すること 	<ul style="list-style-type: none"> 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解すること 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解すること 速さが一定であること基に、道のりと時間の関係について考察すること

学力の定着に向けた取組（一部）

田丸小

- 朝の学習で基礎的な四則計算練習に取り組む。
- 自分の考えや計算順序などを説明する活動を取り入れる。

有田小

- 小数のわり算の計算力を確実に定着させる。
- 自分の考えを、言葉や数・式を使って順序立てて書く活動を充実させる。

外城田小

- 自分の考えを、言葉・数・図・表などを使って説明する活動を取り入れる。
- 経年的課題である「割合」「がい数」「図形」を中心とした系統的な指導を行う。

下外城田小

- 小数の除法に関する練習問題を増やし、除数と商の関係を視覚的に理解させる。
- 円周率に関する実験や活動を通じて、直径と円周の関係を体感的に理解させる。

(2) 中学校

①国語科

	強み	弱み
玉城中	<ul style="list-style-type: none">・意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること・具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること・文の成分の順序や照応について理解すること	<ul style="list-style-type: none">・資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること

学力の定着に向けた取組

- 定期テストだけでなく、単元テストや確認テスト等を計画的に行い、知識・技能の定着を図る。
- 授業初めに帯学習として文法や漢字の問題に取り組むことで、知識・技能の定着を図る。
- 定期テストや確認テスト等において、短答式の問題ばかりではなく、複数の条件を設定した問題を出す。
- 文章と図表を結び付けて考える問題や、情報と情報をつなぎ合わせて答える問題を出す。

②数学科

	強み	弱み
玉城中	<ul style="list-style-type: none">・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと・等式を目的に応じて変形すること・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解すること・与えられたデータから最頻値を求めること	<ul style="list-style-type: none">・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすること

学力の定着に向けた取組

- 毎日、タブレットで問題演習の宿題を課し、問題等を解く習慣を継続させる。
- 定期テストの振り返りとして結果の得点率を提示し、自分の強み・弱みを分析させ言語化させる。
- 条件付きの記述問題について取り組む機会を今後も続けていく。
- n を用いた偶数の表し方など、典型的な問題に多く触れるためにワークシート等を活用する。
- 単元の振り返りやテストの振り返りを通して、自分の得点分布を元に分析し、言語化させる。
- わからない問題についても一人でいったん思考し、粘り強く取り組む活動に取り組ませる。

3 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 小学校

【強み】

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている。
- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
- ・将来の夢や目標をもっている。
- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・友達関係に満足している。
- ・5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をよく使用した。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。
- ・算数や理科の勉強が好きである。

【弱み】

- ・普段（月曜日から金曜日）1日当たりのテレビゲームをする時間や、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間が比較的長い。
- ・学校に行くのが楽しいと思う児童の割合が低い。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童の割合が低い。
- ・5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思っている児童の割合が比較的低い。
- ・5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用すること、学習内容がよく分かると思っている児童の割合が低い。
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた児童の割合が低い。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童の割合が低い。
- ・国語の勉強が好きで児童の割合が低い。

(2) 中学校

【強み】

- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、ICT 機器を勉強のために使う時間が長い。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をよく使用した。
- ・1、2年生のときの学習の中で、PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、その有用性や学習効果を感じている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- ・国語の勉強が好きである。
- ・国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。
- ・数学の勉強は大切だと思う。
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。

【弱み】

- ・人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合が比較的低い。
- ・普段、土日とも、学校の授業時間以外の学習時間が比較的短い。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた生徒の割合が低い。
- ・1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う生徒の割合が比較的低い。

4 まとめ

本町では、児童生徒がタブレット端末を日常的に文房具のように使用して学習を進めています。そのため、授業における ICT 機器の活用率が、小・中学校ともに全国及び県平均を大きく上回っています。しかし、活用率が高い反面、小学校においては、学習の中で ICT 機器を活用することについて、その有用性や学習効果を感じている児童の割合が比較的低いという結果でした。一方、中学校においては、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」等の設問に対して、肯定的な回答が多いという結果でした。「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」という設問については、小・中学校ともに肯定的な回答が多く、考えの共有や比較場面においては効果的な活用となっています。今後も、情報モラル教育の充実と並行し、小・中学校が連携して学習効果を考えた ICT 機器の活用を一層推進します。

1日当たりのテレビゲームや動画視聴の時間が長いことは、本町における経年的な課題の一つです。クロス集計では、1日当たりのテレビゲームや動画視聴の時間が短いまたは全くしない児童生徒は、長時間している児童生徒に比べ、各教科の平均正答率が高いという結果でした。特に、算数科及び数学科で大きな差となっています。この課題改善に向けて、昨年度まで実施していた「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー」の内容を見直し、今年度から新たに「プラスチャレンジ」として取り組んでいます。これは、学力の向上と家庭学習習慣の一層の定着を図ることをねらいとし、期間中はテレビ・動画視聴やゲームの時間を減らし、減らした分の時間を「自分で決めた勉強（宿題以外の自主学習）」か「読書」にあてるというものです。この取組を通して家庭と学校とが一層連携し、家庭での学習習慣を定着させることで、児童生徒の「自ら学ぶ力」を育むことを目指します。

できなかったことをできるようにするために、今回の分析で弱みとしてとらえたことを全職員で共有し、各学年の指導事項と照らし合わせて日々の授業改善に生かすとともに、一人ひとりの定着状況に応じたきめ細かな指導を、各校で一層推進します。